

鬼ごっこなど、遊具以外の遊びでの事故事例と防止対策

鬼ごっこやかけっこなど、遊具を使わない遊びでも事故は起きます。夢中になって周りが見えなくなり、他の子供とぶつかったり、遊具や扉、ガラス戸などにぶつかる事故も報告されています。

遊具以外の遊びでの事故の事例

事故事例 1：鬼ごっこ

4歳の男児が園庭で鬼ごっこをしていたところ、向かいから走ってきた幼児とぶつかって転倒し、地面に頭をぶつけた。

事故事例 2：鬼ごっこ

6歳の女児が園庭での鬼ごっこ中、後ろを見ながら逃げていたところ、張り出した木の枝で目を突いた。

事故事例 3：リレー

5歳の女児が運動会のリレーでバトンを受け取り、走り出したところ、走り終わった幼児とぶつかって転倒し、けがをした。

事故事例 4：親子競技

6歳の女児が運動会で父親と親子競争をしていたところ、女児を肩車していた父親の足がもつれて後ろに転倒、女児が後頭部を強打した。

出典：災害共済給付制度（独立行政法人日本スポーツ振興センター）

遊具以外の遊びでの事故を防ぐために

子供への指導

遊びのルールを教える

- ・鬼ごっこでは、逃げる範囲や追いかけ方などの決まりを守る
- ・運動会では、走り終わったらコースを出るなどの基本的なルールをしっかりと子供に教えましょう。

保育施設の対策

環境を整備する

- ・園庭に石が転がっている
- ・足を引っかけるような段差がある
- ・木の枝が張り出している

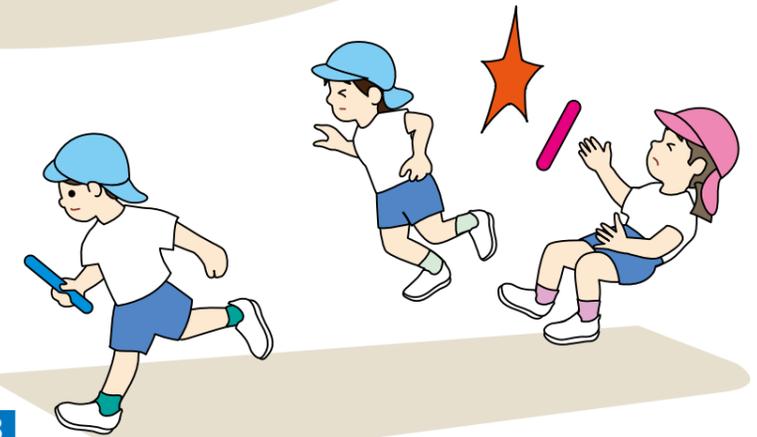
などの危険な場所は整備・補修して、遊ぶ環境を整えましょう。

危険の少ない遊び方に配慮する

- ・鬼ごっこでは、逃げる範囲を決める、適正な人数で行う、鬼の追いかけ方を工夫するなどのルールづくりをして、できるだけ危険のないような遊び方を取り入れましょう。
- ・運動会では、特に大人が活動に参加する場合、園庭の広さが大人には十分でなかったり、運動不足から思わぬけがにつながる可能性があるため、注意喚起を含めて安全に留意することが大切です。



事故事例 1



事故事例 3



事故事例 4